

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和元年8月28日から令和2年1月27日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和元年11月現在）

事業所名： (施設名) 長野市東部保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課次長 広田 貴代美	定員（利用人数）：100名（104名）
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和46年4月1日
経営主体： 長野市	
所在地：〒388-8002 長野県長野市篠ノ井東福寺745番地	
電話番号： 026-293-0944	FAX番号： 026-293-0944
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/	
職員数	常勤職員：23名 非常勤職員：20名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・看護師 1名
	・保育主任 1名 ・子育て支援員 2名
	・保育士 34名 ・給食調理員 4名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 2室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 3室 ・子育て支援センター … 1室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 4室 ・滑り台 ・ジャングルジム ・三間低鉄棒 ・六角はん登棒	

3 理念・基本方針

○長野市保育理念(保育所型認定子ども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

○東部保育園保育目標

スローガン『ともだちいっぱい うーんとわくわく とうぶのこ』

- (1)よく食べ元気に遊ぶ子ども
- (2)思いやりのある情緒豊かな子ども
- (3)よく見、よく聞き、考えて行動する子ども
- (4)自分の思いを表現できる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

東部保育園は長野市が直接運営する28保育園(内休園1園)と2認定こども園のうちの一つで、昭和46年4月に開設され、「東部子育て支援センター」が同じ建物内に併設されている。

当保育園の発祥は大正14年6月の農繁期に東福寺託児所児童保護者会により開設された農繁期の保育所に遡ることができ、昭和16年6月東福寺保育園隣保協会により季節保育園となり、昭和23年8月東福寺村立東福寺保育園として正式に児童施設として認可された。その後、昭和25年7月東福寺村が篠ノ井町に合併したことともない篠ノ井町立東福寺保育園となり、また、昭和34年5月篠ノ井町が篠ノ井市となることにより篠ノ井市立東福寺保育園となった。更に、篠ノ井市が昭和41年10月、川中島町、松代町等、2市3町4村で昭和の大合併をしたことにより長野市に移管され長野市立東福寺保育園となった。昭和46年4月には西寺尾保育園と統合し長野市立東部保育園に改称し現在地に開設され、平成11年6月には子育て支援センターの事業を開始し、平成20年3月園舎が新築となり現在に至っている。

東福寺地区は長野市の東南部にあり、長野市篠ノ井市街地より約5kmの国道19号線沿線の豊かな水田や桃畑、りんご畑に囲まれ、南には千曲川が流れ地味豊かな土地を形成している。そうした静かな環境も1998年2月の長野オリンピック冬季競技大会を機に様変わりし、その跡地を中心に現在は野球場(長野オリンピックスタジアム)、体育館、プール、屋内温水プール、幼児プール、テニスコート、総合球技場(長野Uスタジアム)、相撲場、ゲートボールコートなどが整備され市民が憩う南長野運動公園となっている。

近年、その運動公園の東側のバイパス沿いには食品総合スーパー、DIY店、家電量販店、衣料品専門店が並び、また、新興住宅地も拡大している。当保育園はその運動公園の南側にあり、近くには東福寺神社や川中島古戦場などがあり、地区の環境が激変しつつある中、四季折々の自然は変わることなく、子ども達の散歩や探索の場も多く、散歩のエリアも広く、散歩コースも年齢に合わせて幾つか設定されている。令和元年9月には「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けて活動している。

こうした中、最近では保護者の勤務の都合で出退勤時の利便性の点で地区外から当保育園を選ぶ保護者も増えており、現在の年長児の就学先の小学校も5校に及ぶという。都市化が急速に進んでいることから、祖父母と同居する家庭もあるが核家族家庭が多く、時間外保育を利用する保護者も多い。また、園児の送迎は大半が車を使用している。

当保育園から東に700m~800mの場所には園の多くの子ども達が就学する篠ノ井東小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の中の「小学校との連携の充実」に沿い、年長の子ども達はその小学校の音楽会や運動会に招かれ、ま

た、見学をし、小学校2年生と定期的に交流している。また、ほぼ同じ学校区内にある、篠ノ井東中学校の生徒も職場体験などで来園し子ども達とふれあっている。

現在、当園には0・1歳児6名のもも組、1・2歳児9名のりんご組、2歳児9名のめろん組、3歳児・4歳児・5歳児混合のこあら組19名・ひつじ組20名・ぱんだ組20名・きりん組21名の七つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された令和元年度「全体的な計画(保育課程)」の五つの「保育方針」に掲げた「安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします」「専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します」等の実現に向けて、子どもの発達の特性や発達過程を理解し、その発達及び生活の連続性にも配慮しつつ子ども達と生活や遊びを共にしている。

また、当園には長野市が運営している七つの地域子育て支援センターの一つが園の建物の一角にあり、主に就園前の子どもとその保護者が気軽に遊び、交流したり、子育ての情報交換をしたり、常駐の職員が子育てに関する相談にのるほか、各種講座なども開催し、地域の子育てネットワークの中心となって子育て応援をしている。いつでも受け入れが可能となっており、現在、一日平均、3～4組前後の利用があり、人気のスポットとなっている。

更に、当園では保護者のニーズに合わせた様々なサービスを提供しており、仕事と子育ての両立等を応援するための長時間保育や一時預かり、障がい児保育等を実施している。長時間保育は短時間保育利用者も時間外保育を必要とする際に利用できるサービスで、標準時間保育と合わせると半数近くの子子ども達利用している。一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも希望に応じ子どもを受け入れている。障がい児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容で当園ではバリアフリー化が進められており障がい児用のトイレも設置している。そのほかに、親子交流保育も行い、障がいを持つ子どもが保護者と保育体験をし、ふれあいながら様々な遊びを楽しんでいる。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿ったビジョンを明確にしており、今年度の中・長期計画として、長野県自然型保育(信州やまほいく)の充実を図ること、運動遊びを通じた体作りの充実、他園との交流などに取り組んでいる。また、職員は、当園の事業計画のうちの重点課題、「保育内容の充実」として自然・地域資源・人材等を生かした保育を行うこと、異年齢保育・年齢別保育のそれぞれの良さを取り入れた保育を行うこと、小学校との連携の推進等を掲げている。当保育園では子ども達の生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生活時間の大半を過ごす場としての保育園であることを踏まえ、子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うため、十分に養護の行き届いた環境の下、職員一人ひとりが自らの資質向上及び当保育園全体の専門性の向上に取り組みつつ子ども達の生命の保持及び情緒の安定を図っている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) メリハリのある異年齢保育と同年齢保育

当保育園では3年前から異年齢のクラスでの活動を取り入れており、一日を異年齢保育(クラス)と同年齢保育(チーム)とで過ごす時間帯を設けている。現在、0・1歳児6名のもも組、1・2歳児9名のりんご組、3歳児・4歳児・5歳児混合のこあら組19名・ひつじ組20名・ぱんだ組20名・きりん組21名の6つの異年齢のクラスがあり、チームとして3歳児のはなチーム、4歳児のつき1チーム・つき2チーム、5歳児のにじチームという編成になっている。

朝の体操は全園児で行い、中心となる活動は一日の計画に基づき、年長児の就学時期にも当るこの時期、午前中は年齢の特性を考慮し同年齢での活動を重視し、給食から午睡まではチームで過ごし、午後、クラスで過ごす時間が多くなっている。

社会が核家族化に変わりつつある中、人と人の関係性も変わり、同年齢での展開よりも異年齢での展開が必要とされる世の中になってきているように思われる。異年齢で保育するメリットは、教え、教わるという体験をすること、年長児の行動を見て真似たり、あこがれたり、お互いに刺激を受けるということにあると言われ、それは、遊ぶときだけでなく、大人になるときの準備に必要なことで、社会という異年齢集団でのかかわりのために、子どもの頃から異年齢で過ごす体験が重要になるとも言われている。異年齢での生活では助け合い、思いやりの気持ちも生まれている。

同年齢保育では成長に個人差はあるものの、学年としての目標に向けて、集団としての活動を広げていくことができる。また、決まった集団を続けていくことで、連帯感や団結力が生まれ、仲間意識へとつながると言われている。3歳前後になれば、言葉の語彙も増え、自分の気持ちを言葉で表現するようになり、同じような発達過程にある友だちとの会話により、より複雑なコミュニケーションが必要になり、「考える」という能力が一段と発達するとも言われている。年齢別にすることで、限られた条件の中でも、年齢に応じた発達に必要な時間と空間が作りやすくなり、当保育園では発達年齢に合わせた指導計画を作成し、子どもたちの主体性を尊重し、意見や考えを活かした保育を行っている。

当保育園では異年齢保育と同年齢保育のメリハリをつけ、大勢の友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりして、充実感をもってやり遂げるように職員が熱心に支援している。

2) 豊かな社会資源を取り入れた保育

当保育園は令和元年9月に「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受けている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Iで「『育ちを豊かにする』教育活動の推進」と掲げ、その1の「自然環境を活かした体験活動の充実」として「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」とし、また、その3の「人との関わりと表現力を養う活動の充実」として「人に対する関心、愛着、信頼感の育成」としており、当保育園ではそれらを実践している。

当保育園の北側には野球場、体育館、プール、テニスコート、総合球技場、相撲場、ゲートボールコートなどが整備された運動公園があり、また、親水公園などもありカモの姿もみることが出来る。運動公園の周辺部には桜やケヤキなど木々が繁り、カマキリやバッタなどが棲み、トンボや蝶なども飛び交い、四季の移ろいを感じることも出来る。

また、当保育園は水田、果樹園に囲まれ、毎日のように公園、神社へ散歩に出かけ、のびのびと遊び、草花、虫、小動物に触れ合い、時には園に持ち帰り、飼育や制作に繋げている。園庭も広く、大きな桜や柳が植えられ花や緑を楽しみながら、体を十分に動かして全園児で一緒に遊ぶことができ、遊びの中でルールを知り、協力する楽しさ、思いやりの心を育てている。

更に、園庭には立派な畑があり、園庭の一角にはプランターもあり、地域のお年寄りの指導を受けながらジャガイモ、オクラ、ナス、キュウリ、トマト、ピーマン、ゴーヤなどを栽培し、その生長を観察し、収穫したものを給食食材として使用するなど、「食」の大切さも学んでいる。

当保育園の事業計画や全体的な計画として文書化し、地域の高齢者を対象とした施設やデイサービスの利用者とふれあったり、J A主催のフラワー交流に年長児が参加したり、地域の方が育てた花を見たり頂いたりしている。また、地域の方に教えていただき、ぶどう作りを経験させてもらったりするなど、地域の方と定期的に交流をしている。小学生との交流や中学生の職場体験も受け入れ、様々な年齢の人々との触れ合いを大切にしている。子育て支援センターが併設され、出前広場(月2回)も行うなど地域の子育て支援を行っている。

当保育園の全体的な計画(保育課程)では教育面の「人間関係」、「環境」で「地域のお年寄りなど、身近な人に親しみやいたわりの気持ちを持つ」、「動植物の飼育や栽培を通し、生き物や自然物への愛情を持つ」としており、地域にある様々な社会資源を活かし、関係機関等との積極的な連携及び協働を図るとともに、子育て支援に関する地域の人材と積極的に連携を図るように

している。

3) 職員の資質向上への取組み

市あるいは園全体の保育の質の向上を図るため、職員一人ひとりが保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高めるとともに、保育実践や保育の内容に関する職員の共通理解を図り、協働性を高めている。

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Vで『育ちを確かにする』職員の力量の向上」と掲げ、その1の「専門的な知識、技術に関わる研修の充実」、その2の「職場研修の充実」として「様々な研修によって得た知識や技術を用いて指導力の向上を図る」としており、当保育園ではそれらを実践している。また、当保育園の2019年度の事業計画でも「職員育成と研修計画」として職員は園内外の研修に参加している。

職員の資質の向上とモラールアップのために各職員の研修計画及び園全体で学びたい園内研修の内容についても全員で話し合い計画的に取り組み、特に、園内研修では係分担を行い、各研修担当職員が研修内容・進行・実施後の評価を自ら担いその充実を図っている。また、保育理念、基本方針、保育目標に向けて保育実践にどのようにつなげていくのかを職員間でラベルワーク法を使って保育の質の向上に努めている。

市としての「長野市保育士研修概要」や「園内研修計画」があり、計画的に園長リーダー会、園長会、主任会、保育士部会、障害児研修会、未満児研修会、給食部会等での研修を開催しており、その報告から必要性に合わせ園内研修を行い、職員に周知している。別に、市職員としての研修体系があり、新任職員研修、2年目・5年目・10年目職員研修、嘱託1年目・5年目職員研修、主査・新任主任・新任園長・新任課長補佐研修などが実施され、研修会後のアンケートなどを基に園長リーダー会や園長会などの部会で評価・見直しが掛けられている。「長野市文書管理システム(通称ガルーン)」に掲示板があり、市の実施する研修や職員個々に必要とする外部研修については各職員のパスワードを使い検索し、申込みことができ、各自情報を収集し、自己啓発の意味も含め「講演会」等に自主的に参加している。職員は自ら選択し「私の研修計画」を作成後可能な限り参加している。毎年公私立保育園・幼稚園などの研修、また、他園への訪問保育、公開保育、県保育研究大会、子育て塾などに参加し、参加した職員からの報告も職員会等で行われている。また、園内研修もテーマを絞り毎週行われる職員会議で実施されており、外部研修参加者の報告なども職員会で行われている。

当保育園では長野市の保育理念や基本方針、園目標に沿いながら「保育士がやりたい保育」を実現するためのサポート体制が職員間で出来上がっており、長野市公立保育園で毎年度1園1テーマで実施されている「レポート研究」についても今年度「子どもが安心して自己発揮できるための環境について」としてテーマを絞り、子ども達が人と出会い、自己を発揮し相手を理解しながらいろいろな友達と遊べるようになっていく過程を重視し、全職員が協働している。

4) 情報の共有化による風通しの良い、活気ある職場風土

園長の指揮の下、主任がブリッジ役を果たし、各職員がやり甲斐を持つてのびのびと保育現場に臨んでおり、大変風通しの良い活気のある職場となっていることが感じられる。

異年齢保育、同年齢保育を一日の流れの中で行っているのが大変さがあると思われるが、各時間帯の連携が良くなされている。職員会、未満児会議、幼児会議を設け、一人ひとりの園児の状態を把握し、相談し合える環境を整え計画が実行に移されており、スムーズで安全にチームワーク良く保育を行っている。遊戯室を保育室として使う、多目的トイレを2歳児のトイレとして使うなど限られた環境での不便さを工夫し全職員で補っている。

当保育園の大きな特徴として、また、キーワードとして「共有」が挙げられる。市担当部署が主催する各種会議での情報や知識・ノウハウの共有、当園内での研修を通じた知識・技術の共有、そして、一人ひとりの子どもの情報の共有など、決して排他的にならず、取り入れるべきものは取り入れ、アレンジするものはアレンジするという、共有化が当園全体のサービスの質の底上げに繋がっている。

全体的な計画(保育課程)は職員会で話し合い作成し、発達状況や家庭環境等に配慮し、月案、週日案を作成し実践しており、また、何よりも、一人ひとりの子どもに対する支援内容を共有し、担当、担当外の垣根を越えて保育に取り組む姿勢が、当保育園のスローガン「ともだちいっぱい うんとわくわく とうぶのこ」として子どもたちの日々の満足感に繋がっている。

◇改善する必要があると思う点

1) 安全対策の更なる推進

公立保育園統一の「危機管理マニュアル」には消防計画、洪水計画、避難確保計画等の非常災害時における体制が詳細に記されている。園では毎月想定を変えて避難訓練を実施し、消防署の協力もあり、年に1度「総合防災訓練」を実施している。保護者には緊急連絡網・安否確認システムを使って緊急事態を知らせている。非常災害時に備えて各クラスには、非常持ち出し袋が準備され、緊急時に必要な物品や緊急時の連絡先一覧等が入っている。また、職員は年に1回程度「非常時参集メール」により予告なしの訓練も行っている。

今般の台風19号では当園のある地域の一部で浸水を受けた。今まで想定外と思われていた自然災害が身近に、また、現実となって起きている。

今後、単なる火災のみの避難訓練や地震から始まる火災、二次避難まで想定した避難訓練等だけでなく、「想定外を想定する」ことを前提に、保育中に直下型地震や台風、水害なども考えられることからどう対応するのか幾つかシミュレーションをし、更に備えられることも重要ではないかと思われ、地域のハザードマップについても危険度が色分けされて表示され、子ども達にとって視覚的に見やすいことから園の避難計画にも役立て、地震の際の倒壊危険度や洪水時の予想浸水などに沿い、園の避難計画にも更に活かされ、保育園として最善を尽くせる環境、判断基準を再構築されることを期待したい。

2) 保育室の増設

当保育園では公立保育園の「保育環境マニュアル」を基準に天候に応じて室温、湿度を調整し快適に過ごせるよう配慮している。温湿度計も保育室に設置し、室内環境を整え、チェック表に記入している。環境マニュアル、保健マニュアルに基づいて安全点検（毎朝遊具点検）や衛生チェック（トイレ、水回り・寝具・食品衛生管理）等も行っている。床、壁等内装は可能な限り木材を使用し、太陽光発電も取り入れている。

現在、当保育園については保育室、トイレ数が少ないのではないかと思われ、職員は工夫しつつ遊戯室や絵本の部屋を保育室として使い、子ども達が安全にくつろいで過ごせるよう、クッション性のある敷物やコーナー、ベンチを作ったり、トイレ近くに着替えのできるシートを敷くなど安心できる環境を整備している。

保育の環境には、保育士等や子どもなどの人的環境、施設や遊具などの物的環境、更には自然や社会の事象などがあると言われており、保育園は、こうした人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならないとされている。

当保育園のある地域では新興住宅地が拡大していることから、今後も年々園児数が増加するものと推測される。当保育園の利用予測については市の担当部署で行っており、また、設備投資という面では市の判断を要することから一朝一夕に進めることはできないものと思われるが、子どもの活動が豊かに展開されるよう保育室数を増やし、加えて園舎の設備や環境を整え、保健的環境や安全の確保などに更に努めることを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(令和 2年1月23日記載)

第三者評価を受審するにあたり、改めて自園の生い立ちや地域の大切な保育園であること、今まで大切に積み重ねてきた事項等職員一同再認識し、保育全般の再確認からスタートしました。また、保育理念、基本方針、園目標を基に子ども達がどう育っているか、子ども達のためにどう支援できているか、常に職員間で意見を出し合い悩みながら進めてきました。

特に良いと評価していただいた点

- ・ メリハリのある異年齢保育と同年齢保育
- ・ 豊かな社会資源を取り入れた保育
- ・ 職員の資質向上への取り組み
- ・ 情報の共有化による風通しの良い、活気ある職場風土

に関しては、特に豊かな自然や保護者の皆様をはじめ地域の方の協力が基盤にあり恵まれた環境が何よりの良さだと感じています。

また、異年齢と同年齢の保育形態については良さもある中で課題もあり、事あるごとに全職員で悩み、話し合いを積み重ねて方向性を出してきました。一人ひとりが考えを持ち真剣に話し合う中で自然と情報の共有化による風通しの良い、活気ある職場風土に繋がったのではないかと振り返ります。今後も職員同士意見を出し合いながら保育を進めてまいります。

改善する必要がある点については

- ・ 安全対策の更なる推進ということで今般の台風19号からの自然災害はまさに想定外を超えた状況であり「子ども達の命をいかにして守るか」が大きな課題となりました。示していただいたように、園として最善の対応を検討してまいります。

- ・ 保育室の増設については保育・幼稚園課及び市当局の指示を仰ぎながら当面、職員間で知恵を出し合い工夫することで今現在の環境を最大限に生かして安全で楽しい保育ができるよう検討してまいります。

保護者の皆様にはお忙しい中、ご協力をいただき感謝しています。アンケートでは貴重なご意見をありがとうございました。真摯に受け止めフィードバックしていきたいと思えます。また、今まで以上に保護者の皆様と連携を取りながら子ども達のより良い成長のために努力してまいります。

最後になりましたが、コスモプランニングの皆様の丁寧で温かい対応と様々な角度から当園の強みと課題を示していただきありがとうございました。